

番号	105	英語検定3級資格保有者率(中学3年生)	目標値	30.0%
			目標年度	16年度
			達成度	

指標の定義および算出式

定義 中学3年生の実用英語検定3級の保有割合

算出式 中学3年生3級保有者 / 中学3年生生徒数

この指標はなぜ重要か

ますます国際化が進む社会において、コミュニケーションの手段としての英語を身に付けるためには、まず、基礎的・基本的事項の確実な習得が不可欠です。その意味において、中学生の英語学習は、その後一生涯を通して行う学習活動の基礎となる能力を養うことを目的として、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域の言語活動を行っています。

実用英語検定は、上記の4領域の能力を測るのに適した検定であり、3級は中学3年生終了レベルとなっています。また、同時に、国内で広く認知された英語能力試験であり、コミュニケーション能力を測るうえで、県民に最もわかりやすい指標であると考えられます。

現状はどうなっているのか

滋賀の現状

年度を追う毎にほぼ確実に増加傾向にあります。平成10年度から平成11年度にかけての大幅な増加は、検定試験の実施回数が年2回から年3回に変更されたことによると考えられます。

保有率の年度推移：

年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
保有率	13.1%	13.4% 全国34位	18.4% 全国36位	20.5% 全国32位	19.9% 全国33位
全国平均		22.5%	21.7%	23.5%	22.9%

注：平成9年度以前の全国のデータなし

全国の状況や他の都道府県と比較してどうか

全国的な順位からみると、30位代に位置していますが、保有率の全国平均値が平成10年度～平成12年度では21～23%代で推移している中で、本県は平成10年度の13.4%から平成11年度の18.4%、そして平成12年度の20.5%へと上昇していたが、平成13年度は0.6%下降しています。

この目標を設定した理由は何か

全国第1位の東京が、平成11年度の34.5%から平成12年度には41.8%に伸びており、今年度も41.9%とわずかではありますが、上昇しています。本県としては、全国のトップクラスに並ぶ30.0%を目標値に設定しました。また、目標年度については、新学習指導要領が実施されて3年目となる16年度と設定しています。

今後、どのように取り組んでいくのか

県の施策展開として

中学校の英語教育において、コミュニケーション能力の基礎を一層育成できるような指導法等の改善を促したいと考えています。

また、生徒に英語学習に対する興味・関心を持たせ、個々の生徒の英語能力を測る方法として、英語検定試験があることを広く知らせていくことについても考えていきます。

県民、企業、市町村等とのパートナーシップや役割分担をどのように図っていくべきか

特別な役割分担はありませんが、中学校の英語教育において、コミュニケーション能力の育成を重視した指導を展開していることに理解と協力をいただくよう、日々の活動の中で取り組みたいと考えています。

関連する県の基本施策

- 1 2 3 2 学校教育内容の充実
- 1 2 3 3 教育環境の整備

指標の数値はどのようにして把握したか

出典

(財)日本英語検定協会資料

出典以外に参考となる資料等

特になし

担当課：教育委員会事務局学校教育課